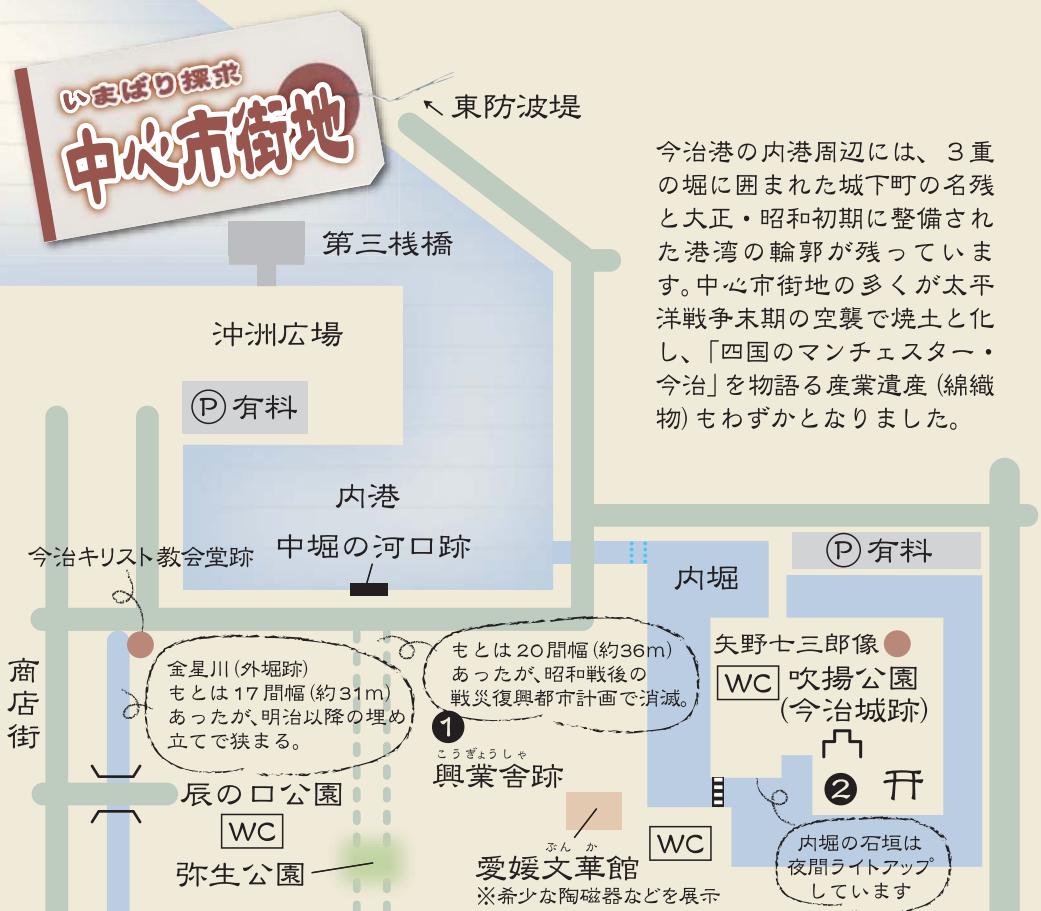


いまばり探求
中々市街地



今治港の内港周辺には、3重の堀に囲まれた城下町の名残と大正・昭和初期に整備された港湾の輪郭が残っています。中心市街地の多くが太平洋戦争末期の空襲で焼土と化し、「四国のマンチェスター・今治」を物語る産業遺産（綿織物）もわずかとなりました。

商店街

内港周辺



①(株)興業舎第一工場跡 (通町)

四国屈指の綿織物会社・興業舎があった場所で、同社は矢野七三郎の遺志を継ぐ柳瀬一族によって成長を遂げた（主力は綿ネル・広幅織物）。建屋の壁だけが残る（明治後期竣工か）。



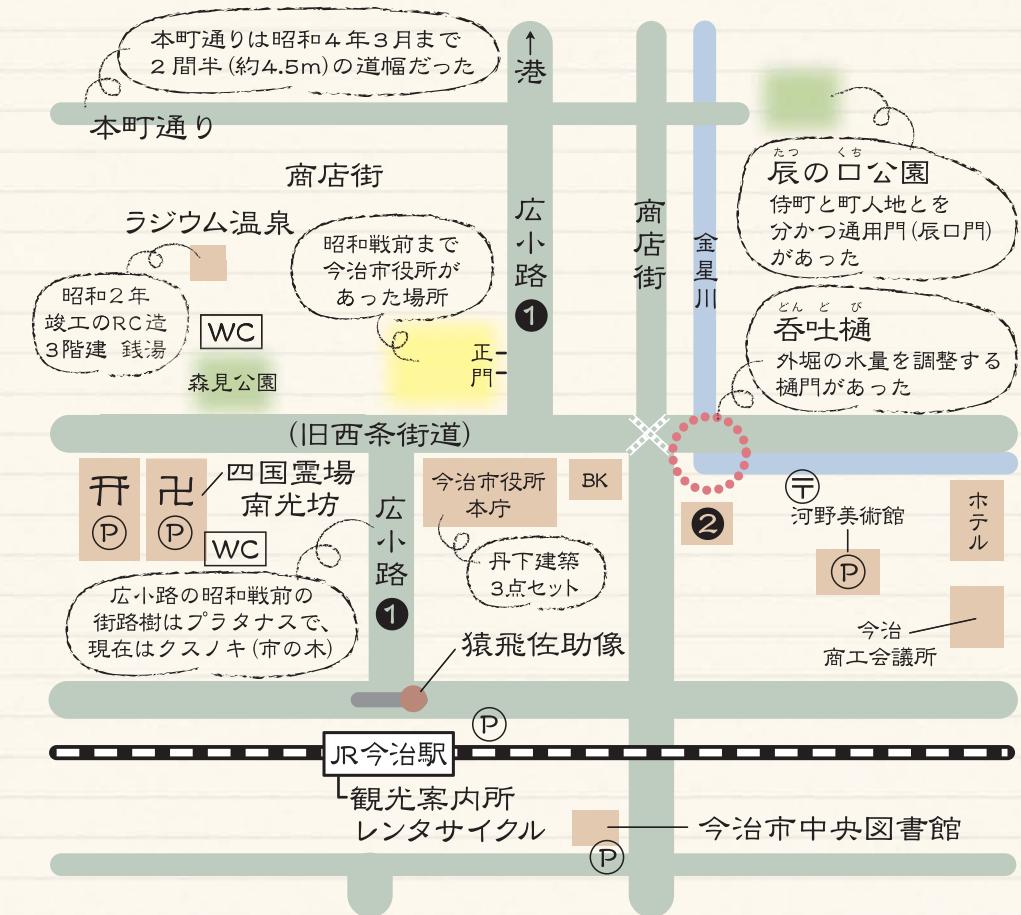
②開市記念 時報塔 (本丸跡西隅櫓台)

大正9年の今治市制施行を記念してつくられた。サイレンで市民に時間を伝え、太平洋戦争中は空襲警報にもなり、昭和30年代に廃止。台座の高さ4m余りで、外装はモルタル。



築港完成当時の今治港(昭和9年)
※写真/今治市所蔵

今治港の築港整備は大正9年(1920)年から昭和9年(1934)年にかけて実施され、長く伸びる東防波堤や内港の輪郭はこの時に出来上がります。これにより、藩政時代の港の景観は一変します。



① 昭和初年の駅前広小路

今治駅の開業に合わせ、広小路は当時の市庁舎正門前まで整備された。港まで伸びるのは昭和4年3月のこと。当時の道幅は10間(約18m)で、昭和戦後に20間幅(約36m)に拡張された。



A photograph showing the exterior of a multi-story concrete parking garage. The building has a modern, industrial look with large windows and a flat roof. A vertical sign on the left side of the entrance reads "TOYOTA CENTER". The sky above is overcast.

② 愛媛信用金庫今治支店 (1960年竣工)

これ以外にも、現存する今治市役所本庁舎・公会堂(1958年)、市民会館(1965年)や今治商工会議所(1985年)などが、今治出身の建築家・丹下健三(1913~2005年)の設計による。

今治の広小路は、国鉄今治駅の開業(大正13年2月)が契機となって、駅と港を結ぶ近代の目抜き通りとして整備されます。一方、それ以前の目抜き通りは本町通りで、城下町の町割りは海岸線と平行でした。この双方の都市軸の交差点が、市庁舎前ロータリーです。昭和戦後は、ここを都心に位置づけたまちづくりを行い、港町・今治は発展します。